

この本には残念ながら明白な誤りがありにも多い。たとえば星の進化の部分はどう読んでも現在確立している星の進化の理論とは相いれない。例をあげると「超新星爆発のあと白色矮星や中性子星ができる」「中性子星は冷えるにつぶれてブラックホールになる」「重い星は主系列段階のあと中心部のヘリウムが 1.44 M_☉ に達したとき超新星爆発をする」等である。この本が著者の意図どおり、中学高校の先生方の参考書にもなるとすれば、こういった本質的な誤りは無用の混乱をまねくだけである。世に誤解を広めないためにも、できるだけ早い機会に書き直されることを望む。

その他気づいたことを述べると、太陽系の起源論では、遭遇説等まで詳しく説明してあるにもかかわらず、現在もっとも成功を納めている林学派の精緻な太陽系形

成理論にだけはひとつもふれていないのは、学問の現状を歪曲するものである。また天体望遠鏡の章では光学望遠鏡のみを詳述しているが、いまや天文学にとって可視光以外の波長領域は欠くことのできないものである。日本にも野辺山の電波望遠鏡やX線天文衛星など見るべきものは多いのだから、多少なりともふれてほしかった。

最後に訳語についてであるが、これは各人意見の異なるところと思う。著者は意欲的に訳語にとり組んでおられるようで、擾乱小宇宙、クアサール、重星種 I などの新たな訳語を提唱されている。しかしすでに学界では特異銀河、クエーサーなどの用語が定着しているいま、本書の中だけでこれらの言葉を使用するのは、一般の読者にとってはかえって不親切なのではあるまいか。

(加藤万里子)

賛助会員名簿

(1984年1月5日現在の国会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	松本徹	天文博物館	
朝日新聞社科学部	芝田鉄治	五島プラネタリウム	五島昇
アストロ光学工業株式会社	岩川毅	東京電力株式会社	平岩外四
岩波書店	緑川享	東北電力株式会社	若林疆
宇宙開発事業団	山内正男	長瀬産業株式会社	
大阪市立電気科学館	笹川久史	コダック製品事業部	田川敏
沖電気工業株式会社	妹尾厚	ナルミ商会	村上俊男
カールツァイス株式会社	ハインツ・シュミット	日本光学工業株式会社	小秋元隆輝
河出書房新社	清水勝	(社)日本測量協会	宮地政司
関東電気工業株式会社	関井忠夫	(財)日本地図センター	宮地政司
(株)教育社	高森圭介	日本通信機株式会社	川島穰
国際文献印刷社	笠井康弘	日本特殊光学	山田坂雄
啓文堂松本印刷	佐本喬	富士通株式会社	
恒星社厚生閣	松竹久男	システム統轄部	三次衛雄
五藤光学研究所	五藤隆一郎	丸善株式会社	海老原熊雄
コロンビヤ貿易株式会社	飛田利一	三鷹光器株式会社	中村義一
金光教本部教庁	金光鑑太郎	三菱電機株式会社	
サンシャインプラネタリウム	宮垣喜代治	宇宙開発部	池本孝
誠文堂新光社	小川茂男	ミノルタカメラ株式会社	田嶋英雄
関商事株式会社	関周夫		
地人書館	中田威夫		

1983年11月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	3,	18	6	—,	—	11	7,	32	16	3,	38	21	1,	1	26	1,	1
2	4,	10	7	6,	56	12	5,	19	17	3,	25	22	0,	0	27	0,	0
3	4,	13	8	8,	70	13	5,	10	18	2,	28	23	0,	0	28	1,	5
4	—,	—	9	8,	59	14	4,	12	19	2,	20	24	0,	0	29	2,	9
5	—,	—	10	—,	—	15	2,	14	20	2,	7	25	0,	0	30	2,	11

(相対数月平均値: 33.5)

昭和59年1月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂松本印刷
定価 450 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹 31 局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595